



一般社団法人
日本建築学会

建 築 文 化 週 間 2019

トウキョウ 建築まち歩き

日本橋・本所・深川



<http://bunka.aij.or.jp/machiaruki/>

まちのタカラ探し

日本橋北詰からスタートして、江戸の下町、旧日本橋区、旧本所区、旧深川区を歩きます(ルートは6-7頁の地図をご覧ください。点線で示してあります。一部地下鉄を利用します)。

この地区は、江戸の昔の度重なる大火と、関東大震災、東京大空襲の業火をくぐり抜けてきました。それゆえ目にする建物のほとんどは新しく、「下町」という言葉が想起させる伝統的なまちなみの風景は期待できません。しかし、江戸の文化が華開いたのは、江戸城の東側の低地に町人を住ませたこの下町からであり、今なお、まちの骨格と人びとの営みの中に、四百余年のまちの歴史は息づいています。古地図や浮世絵、古写真を携えながらまちのタカラを探すことを、今回のまち歩き楽しみとします。

江戸の橋といえば江戸下町の象徴である日本橋(慶長8/1603年)が有名ですが、もうひとつ、江戸にとって重要な橋は「明暦の大火」(明暦3/1657年)の後に隅田川に架けられた「両国橋」(万治2/1659年 or 寛文元/1661年)でした。この橋によって下町が、隅田川を越えて本所、深川に拡張することになります。数ある江戸の大火の中でも最大の被害をもたらした「明暦の大火」からの復興は、江戸のまちを大きく変えるものでした。

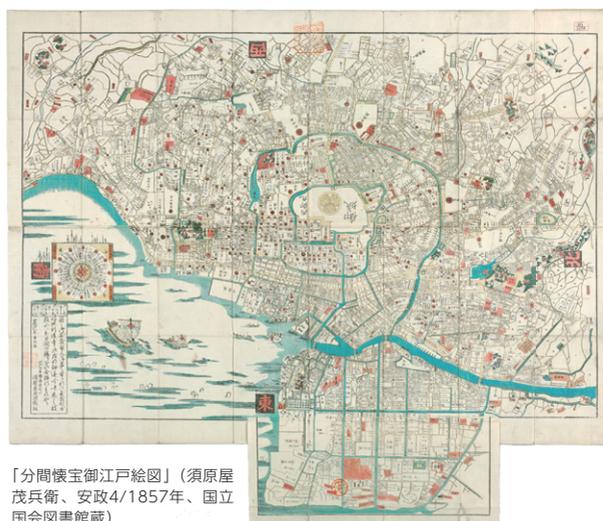
時代は下って東京に壊滅的な被害をもたらした関東大震災(大正12/1923年9月1日)からの復興事業では、今に至る東京のまちの社会基盤として道路、公園、橋、インフラが整備されました。建築の耐震化、不燃化の取り組みが進められ、復興小公園を併設した復興小学校が建設され、復興大公園(隅田公園、浜町公園、錦糸公園)が設置されました。市中の川に架かっていた橋も大部分が甚

大な損傷をうけ架け替えられました。なかでもそれぞれに独自のデザインで隅田川に架かる橋は今回の見どころのひとつです。

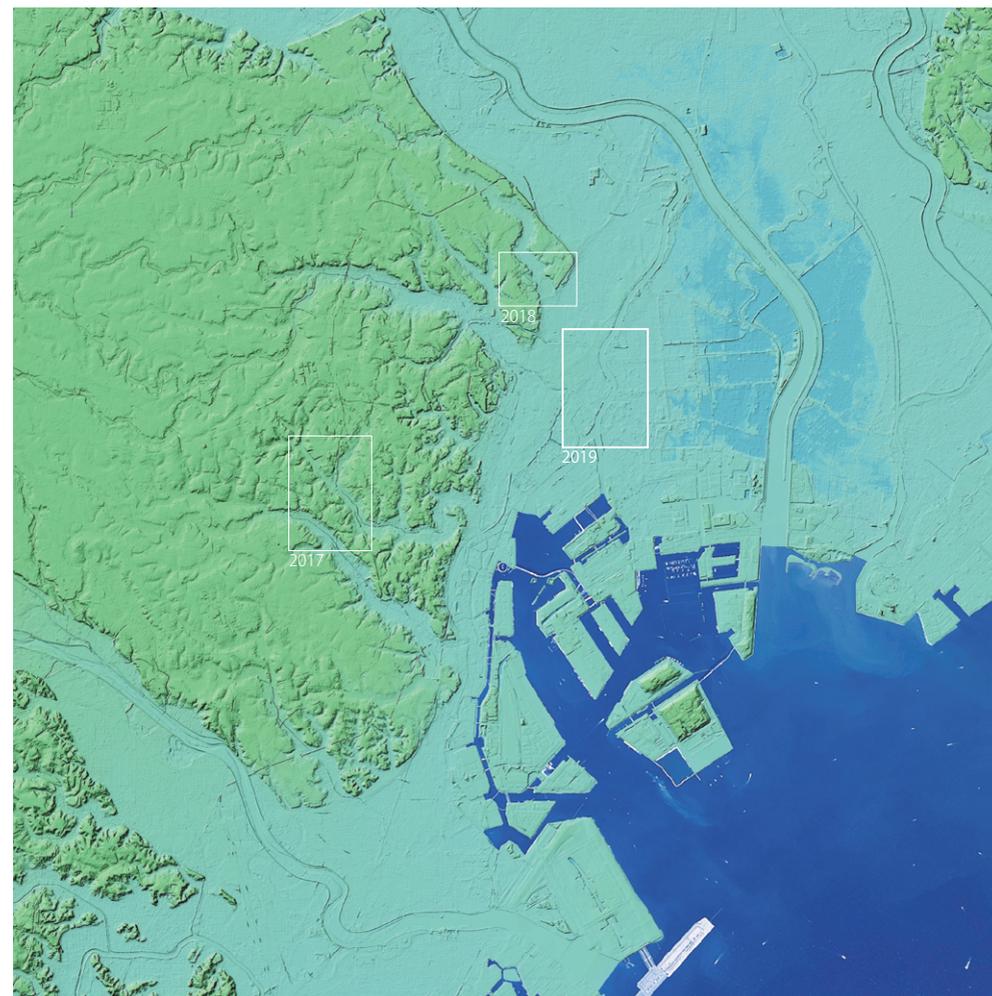
かつては1975年ごろまでに完成した「カミソリ堤防」がまちと川を分断していましたが、近年では「隅田川テラス」が整備され、川と橋を眺める新しいビューポイントが生まれました。

リノベーションによって、町の新しいタカラを生み出す試みもあります。オフィスビルをリノベーションした隅田川を眺めるテラスのあるホテルや、1960年代のビルを改装したゲストハウスやカフェが生まれています。関東大震災後の復興として、深川の清澄に東京市や民間が建設したRC造の店舗付きの住宅は、魅力的なカフェやギャラリーとして使われています。

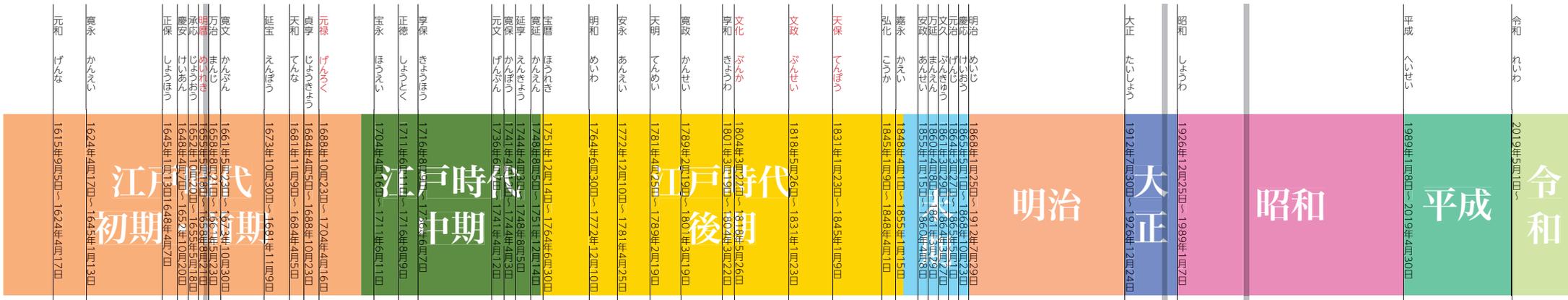
町の歴史が今なお更新されている日本橋、本所、深川の魅力を堪能してください。



「分間懷宝御江戸絵図」(須原屋茂兵衛、安政4/1857年、国立国会図書館蔵)



国土交通省国土地理院 地理院地図アナグリフ(カラー)



出来事

- 1590年(天正18) 徳川家康が江戸入り
- 1603年(慶長8) 幕府樹立
- 1634年(寛永11)「田光東照宮」完成
- 1665年(寛文5)「盗賊改」を設置
- 1683年(天和3)「火付改」
- 1703年(元禄15) 赤穂浪士討ち入り
- 1716~35年(享保元~20) 享保の改革、第8代将軍徳川吉宗によって主導
- 1728年(享保13) 町奉行大岡越前守の命で江戸府内に組織化された町火消しが設置
- 1787~93年(天明7~寛政5) 寛政の改革、老中松平定信が徹底的な緊縮財政、株仲間や専売制を廃止した。
- 1789年(寛政元) 長谷川 宣以(平蔵) = 「鬼平」が、関八州を荒らしまわっていた大盗、神道(真刀・神稱) 徳次郎一味を一網打尽
- 1840年(天保11) 遠山景元北町奉行に就く
- 1841年(天保12) 天保の改革、老中首座の水野忠邦
- 1853年(嘉永6) 浦賀に黒船、お台場建設
- 1858年(安政5) 安政の大獄
- 1859年(安政6) 6月から横浜・長崎・箱館の3港に居留地
- 1860年(安政7) 1月に勝海舟らが咸臨丸で米国に、3月3日桜田門外の變
- 1868年(慶応4/明治元) 江戸城が明治政府軍に明け渡される。江戸を東京に改称
- 1883年(明治16)「鹿鳴館」
- 1894年(明治27)「三菱一号館」(復元)
- 1895年(明治29)「日本銀行本店」
- 1909年(明治42) 清澄庭園の「涼亭」、南国の回向院境内に「旧国技館」
- 1914年(大正3)「東京駅丸の内駅舎」
- 1914年(大正3)「三越呉服店(三越日本橋本店)」
- 1923年(大正12) 帝国ホテル(明治村に移築)
- 1923年(大正12) 関東大震災(1923年(大正12)(9月1日11時58分))
- 1923年(大正12) 東京大空襲(1945年(昭和20)(3月10日))
- 1928年(昭和3)「旧東京市店街舗向住宅」
- 1929年(昭和4)「三井本館」
- 1929年(昭和4)「帝都復興展覧会」が日比谷公園内で開催
- 1929年(昭和4)「JR両国駅日駅舎」、「千代田小学校と千代田公園」
- 1930年(昭和5)「震災記念堂」、「荒川放水路」が完成
- 1931年(昭和6)「東京都復興記念館」が開館
- 1932年(昭和7)総武線両国-御茶ノ水開通、「旧東京市深川食堂」
- 1933年(昭和8)「東京中央郵便局」、「清洲寮」
- 1934年(昭和9)「明治生命館」
- 1966年(昭和41)「横山町奉仕会館ビル」
- 1927年(昭和2) 現在の「千住大橋」に
- 1911年(明治44) 現在の石造アーチ橋「日本橋」に
- 1904年 鉄橋
- 1932年(昭和7)現在の「南国橋」に
- 1912年(明治45)「新大橋」
- 1977年(昭和52)現在の「新大橋」に
- 1926年(大正15) 復興橋梁の一番手として現在の「永代橋」が完成
- 1931年(昭和6)現在の「吾妻橋」に
- 1927年(昭和2)「聖橋」、「柳橋」、「蔵前橋」、「駒形橋」
- 1928年(昭和3)「清洲橋」、「言問橋」/1929年(昭和4)「厩橋」
- 1940年(昭和15)「勝鬨橋」
- 1774年(安永3)「吾妻橋」
- 1805年(文化2) 日本橋を描いた絵巻『庶代勝覧』
- 1823~31年(文政6~天保2)「富嶽三十六景」葛飾北斎
- 1825年(文政8)「東都近郊図」
- 1832年(天保3)「東都名所」歌川広重
- 1833年(天保4)『東海道五十三次絵』歌川広重 (鶴屋 喜右衛門、保永堂)
- 1817年(文化10)「江戸實測図」
- 1849年(嘉永2)「江戸切絵図本」
- 1856~58年(安政3~5)「名所江戸百景」初代および二代歌川広重
- 1857年(安政4)「分間懷宝御江戸絵図」(頼周屋茂兵衛)
- 1818年(文政1)「旧江戸朱引内図」
- 1774年(安永3)「吾妻橋」
- 1702年(元禄15)「おくのほそ道」刊
- 1717年(享保2) 桜もちが向島の長命寺の門前で売り始め
- 1722年(享保7) 本屋仲間が幕府より公認
- 1733年(享保18) 両国川開き花火創始
- 1805年(文化2) 日本橋を描いた絵巻『庶代勝覧』
- 1823~31年(文政6~天保2)「富嶽三十六景」葛飾北斎
- 1825年(文政8)「東都近郊図」
- 1832年(天保3)「東都名所」歌川広重
- 1833年(天保4)『東海道五十三次絵』歌川広重 (鶴屋 喜右衛門、保永堂)
- 1817年(文化10)「江戸實測図」
- 1849年(嘉永2)「江戸切絵図本」
- 1856~58年(安政3~5)「名所江戸百景」初代および二代歌川広重
- 1857年(安政4)「分間懷宝御江戸絵図」(頼周屋茂兵衛)
- 1818年(文政1)「旧江戸朱引内図」
- 1608年(慶長13) 頃「慶長江戸絵図」
- 寛永年間初期「江戸図屏風」(歴博)、「江戸名所図屏風」(出光美)
- 1642~43年(寛永19~20)「寛永江戸全図」
- 1657年(明暦3)「新添江戸之圖」
- 1670~71年(寛文10~11)「新被江戸大絵図」(経師屋加兵衛)
- 1608年(慶長13) 頃「慶長江戸絵図」
- 寛永年間初期「江戸図屏風」(歴博)、「江戸名所図屏風」(出光美)
- 1642~43年(寛永19~20)「寛永江戸全図」
- 1657年(明暦3)「新添江戸之圖」
- 1670~71年(寛文10~11)「新被江戸大絵図」(経師屋加兵衛)
- 1608年(慶長13) 頃「慶長江戸絵図」
- 寛永年間初期「江戸図屏風」(歴博)、「江戸名所図屏風」(出光美)
- 1642~43年(寛永19~20)「寛永江戸全図」
- 1657年(明暦3)「新添江戸之圖」
- 1670~71年(寛文10~11)「新被江戸大絵図」(経師屋加兵衛)

社会基盤

- 1590年(天正18) 浅草に抜ける「本町通り」沿いに金座や町年寄の屋敷地を下賜
- 1592年(文禄元) 千鳥ヶ淵、牛ヶ淵のダム建設
- 1604年(慶長9) 日本橋に五街道の起点を設定 各街道に一里塚
- 1620年(元和6) 伊達政宗が牛込橋付近から和泉橋までの開削
- 1636年(寛永13) 日光街道が開通 飯田橋から赤坂溜池までの外堀の完成
- 1660年(万治3) 壱川、北十間川、大横川、横十間川開削
- 1594年(文禄3) 千住大橋
- 1603年(慶長8) 日本橋(現在の日本橋・銀座中央通りが整備される)
- 1661年(寛文元)「南国橋」
- 1693年(元禄6)「大橋」
- 1698年(元禄11)「永代橋」
- 寛永年間初期に大伝馬町に木綿問屋開業
- 1656年(明暦2) 吉原開軒
- 1684年(貞享元) 富岡八幡宮で春と秋の2場所の勧進相撲
- 1702年(元禄15)「おくのほそ道」刊
- 1717年(享保2) 桜もちが向島の長命寺の門前で売り始め
- 1722年(享保7) 本屋仲間が幕府より公認
- 1733年(享保18) 両国川開き花火創始
- 1805年(文化2) 日本橋を描いた絵巻『庶代勝覧』
- 1823~31年(文政6~天保2)「富嶽三十六景」葛飾北斎
- 1825年(文政8)「東都近郊図」
- 1832年(天保3)「東都名所」歌川広重
- 1833年(天保4)『東海道五十三次絵』歌川広重 (鶴屋 喜右衛門、保永堂)
- 1817年(文化10)「江戸實測図」
- 1849年(嘉永2)「江戸切絵図本」
- 1856~58年(安政3~5)「名所江戸百景」初代および二代歌川広重
- 1857年(安政4)「分間懷宝御江戸絵図」(頼周屋茂兵衛)
- 1818年(文政1)「旧江戸朱引内図」

橋

- 1594年(文禄3) 千住大橋
- 1603年(慶長8) 日本橋(現在の日本橋・銀座中央通りが整備される)
- 1661年(寛文元)「南国橋」
- 1693年(元禄6)「大橋」
- 1698年(元禄11)「永代橋」
- 寛永年間初期に大伝馬町に木綿問屋開業
- 1656年(明暦2) 吉原開軒
- 1684年(貞享元) 富岡八幡宮で春と秋の2場所の勧進相撲
- 1702年(元禄15)「おくのほそ道」刊
- 1717年(享保2) 桜もちが向島の長命寺の門前で売り始め
- 1722年(享保7) 本屋仲間が幕府より公認
- 1733年(享保18) 両国川開き花火創始
- 1805年(文化2) 日本橋を描いた絵巻『庶代勝覧』
- 1823~31年(文政6~天保2)「富嶽三十六景」葛飾北斎
- 1825年(文政8)「東都近郊図」
- 1832年(天保3)「東都名所」歌川広重
- 1833年(天保4)『東海道五十三次絵』歌川広重 (鶴屋 喜右衛門、保永堂)
- 1817年(文化10)「江戸實測図」
- 1849年(嘉永2)「江戸切絵図本」
- 1856~58年(安政3~5)「名所江戸百景」初代および二代歌川広重
- 1857年(安政4)「分間懷宝御江戸絵図」(頼周屋茂兵衛)
- 1818年(文政1)「旧江戸朱引内図」

暮らし

- 1590年(天正18) 浅草に抜ける「本町通り」沿いに金座や町年寄の屋敷地を下賜
- 1592年(文禄元) 千鳥ヶ淵、牛ヶ淵のダム建設
- 1604年(慶長9) 日本橋に五街道の起点を設定 各街道に一里塚
- 1620年(元和6) 伊達政宗が牛込橋付近から和泉橋までの開削
- 1636年(寛永13) 日光街道が開通 飯田橋から赤坂溜池までの外堀の完成
- 1660年(万治3) 壱川、北十間川、大横川、横十間川開削
- 1594年(文禄3) 千住大橋
- 1603年(慶長8) 日本橋(現在の日本橋・銀座中央通りが整備される)
- 1661年(寛文元)「南国橋」
- 1693年(元禄6)「大橋」
- 1698年(元禄11)「永代橋」
- 寛永年間初期に大伝馬町に木綿問屋開業
- 1656年(明暦2) 吉原開軒
- 1684年(貞享元) 富岡八幡宮で春と秋の2場所の勧進相撲
- 1702年(元禄15)「おくのほそ道」刊
- 1717年(享保2) 桜もちが向島の長命寺の門前で売り始め
- 1722年(享保7) 本屋仲間が幕府より公認
- 1733年(享保18) 両国川開き花火創始
- 1805年(文化2) 日本橋を描いた絵巻『庶代勝覧』
- 1823~31年(文政6~天保2)「富嶽三十六景」葛飾北斎
- 1825年(文政8)「東都近郊図」
- 1832年(天保3)「東都名所」歌川広重
- 1833年(天保4)『東海道五十三次絵』歌川広重 (鶴屋 喜右衛門、保永堂)
- 1817年(文化10)「江戸實測図」
- 1849年(嘉永2)「江戸切絵図本」
- 1856~58年(安政3~5)「名所江戸百景」初代および二代歌川広重
- 1857年(安政4)「分間懷宝御江戸絵図」(頼周屋茂兵衛)
- 1818年(文政1)「旧江戸朱引内図」

絵図・浮世絵

- 1608年(慶長13) 頃「慶長江戸絵図」
- 寛永年間初期「江戸図屏風」(歴博)、「江戸名所図屏風」(出光美)
- 1642~43年(寛永19~20)「寛永江戸全図」
- 1657年(明暦3)「新添江戸之圖」
- 1670~71年(寛文10~11)「新被江戸大絵図」(経師屋加兵衛)
- 1608年(慶長13) 頃「慶長江戸絵図」
- 寛永年間初期「江戸図屏風」(歴博)、「江戸名所図屏風」(出光美)
- 1642~43年(寛永19~20)「寛永江戸全図」
- 1657年(明暦3)「新添江戸之圖」
- 1670~71年(寛文10~11)「新被江戸大絵図」(経師屋加兵衛)
- 1608年(慶長13) 頃「慶長江戸絵図」
- 寛永年間初期「江戸図屏風」(歴博)、「江戸名所図屏風」(出光美)
- 1642~43年(寛永19~20)「寛永江戸全図」
- 1657年(明暦3)「新添江戸之圖」
- 1670~71年(寛文10~11)「新被江戸大絵図」(経師屋加兵衛)

災害

- 1590年(天正18) 徳川家康が江戸入り
- 1603年(慶長8) 幕府樹立
- 1634年(寛永11)「田光東照宮」完成
- 1665年(寛文5)「盗賊改」を設置
- 1683年(天和3)「火付改」
- 1703年(元禄15) 赤穂浪士討ち入り
- 1716~35年(享保元~20) 享保の改革、第8代将軍徳川吉宗によって主導
- 1728年(享保13) 町奉行大岡越前守の命で江戸府内に組織化された町火消しが設置
- 1787~93年(天明7~寛政5) 寛政の改革、老中松平定信が徹底的な緊縮財政、株仲間や専売制を廃止した。
- 1789年(寛政元) 長谷川 宣以(平蔵) = 「鬼平」が、関八州を荒らしまわっていた大盗、神道(真刀・神稱) 徳次郎一味を一網打尽
- 1840年(天保11) 遠山景元北町奉行に就く
- 1841年(天保12) 天保の改革、老中首座の水野忠邦
- 1853年(嘉永6) 浦賀に黒船、お台場建設
- 1858年(安政5) 安政の大獄
- 1859年(安政6) 6月から横浜・長崎・箱館の3港に居留地
- 1860年(安政7) 1月に勝海舟らが咸臨丸で米国に、3月3日桜田門外の變
- 1868年(慶応4/明治元) 江戸城が明治政府軍に明け渡される。江戸を東京に改称
- 1883年(明治16)「鹿鳴館」
- 1894年(明治27)「三菱一号館」(復元)
- 1895年(明治29)「日本銀行本店」
- 1909年(明治42) 清澄庭園の「涼亭」、南国の回向院境内に「旧国技館」
- 1914年(大正3)「東京駅丸の内駅舎」
- 1914年(大正3)「三越呉服店(三越日本橋本店)」
- 1923年(大正12) 帝国ホテル(明治村に移築)
- 1923年(大正12) 関東大震災(1923年(大正12)(9月1日11時58分))
- 1923年(大正12) 東京大空襲(1945年(昭和20)(3月10日))
- 1928年(昭和3)「旧東京市店街舗向住宅」
- 1929年(昭和4)「三井本館」
- 1929年(昭和4)「帝都復興展覧会」が日比谷公園内で開催
- 1929年(昭和4)「JR両国駅日駅舎」、「千代田小学校と千代田公園」
- 1930年(昭和5)「震災記念堂」、「荒川放水路」が完成
- 1931年(昭和6)「東京都復興記念館」が開館
- 1932年(昭和7)総武線両国-御茶ノ水開通、「旧東京市深川食堂」
- 1933年(昭和8)「東京中央郵便局」、「清洲寮」
- 1934年(昭和9)「明治生命館」
- 1966年(昭和41)「横山町奉仕会館ビル」
- 1927年(昭和2) 現在の「千住大橋」に
- 1911年(明治44) 現在の石造アーチ橋「日本橋」に
- 1904年 鉄橋
- 1932年(昭和7)現在の「南国橋」に
- 1912年(明治45)「新大橋」
- 1977年(昭和52)現在の「新大橋」に
- 1926年(大正15) 復興橋梁の一番手として現在の「永代橋」が完成
- 1931年(昭和6)現在の「吾妻橋」に
- 1927年(昭和2)「聖橋」、「柳橋」、「蔵前橋」、「駒形橋」
- 1928年(昭和3)「清洲橋」、「言問橋」/1929年(昭和4)「厩橋」
- 1940年(昭和15)「勝鬨橋」
- 1774年(安永3)「吾妻橋」
- 1805年(文化2) 日本橋を描いた絵巻『庶代勝覧』
- 1823~31年(文政6~天保2)「富嶽三十六景」葛飾北斎
- 1825年(文政8)「東都近郊図」
- 1832年(天保3)「東都名所」歌川広重
- 1833年(天保4)『東海道五十三次絵』歌川広重 (鶴屋 喜右衛門、保永堂)
- 1817年(文化10)「江戸實測図」
- 1849年(嘉永2)「江戸切絵図本」
- 1856~58年(安政3~5)「名所江戸百景」初代および二代歌川広重
- 1857年(安政4)「分間懷宝御江戸絵図」(頼周屋茂兵衛)
- 1818年(文政1)「旧江戸朱引内図」

解説者：宇野 求（東京理科大学教授）

栢木 まどか（東京理科大学准教授）

ナビゲーター：大森 晃彦（建築メディア研究所代表）

発行 日本建築学会 建築文化事業委員会

発行日 2019年10月14日

©日本建築学会 建築文化事業委員会 2019

不許複製

建築文化週間 2019

主催 日本建築学会

後援 日本建設業連合会、日本建築家協会、日本建築士会連合会、日本建築士事務所協会連合会

協賛 大林組、鹿島、清水建設、大成建設、竹中工務店、東京メトロ、日建設計、日新工業、日本設計、三菱地所設計、NTT ファシリティーズ